

港南台タウンカフェ タウンシェフ養成

地域の若者や主婦・シニアなど市民の方が、より主体的に事業・活動を推進するために、様々な参加の機会と場を用意しています。定期的な研修を行ったり、事業の企画立案から実施までを行う、タウンシェフ（=まちづくりプロデューサー）養成プロジェクトです。



手作り雑貨やアクセサリを出展する小箱ショッピングオーナーさん達。小箱スクエアやテント村出張小箱で活躍中です。



小箱ショッピングオーナーさんの定期的なミーティングや勉強会を行っています。交流の良い機会にも。



高校生や大学生など若者が中心となって、企画から運営までを行います。写真は国際協力まつりのひとコマ



市民レポーター養成講座。市民の視点で楽しみながらも、まちをどう見つめ表現するか！がダイジなのです。



テント村で商店会の会員さんと学生のコラボカキ氷と抹茶サービスです。

ボク・ワタシにとっての タウンカフェ

大都會で忘れられるがちなコミュニティースペースの重要性を、田舎出のオーナーが見事に事業化している。商店会とのつながり無くしては実現できること。学生ボランティアや近所のお母さんなどが「プレーヤー」として参加できる空間は魅力的。小箱ショップのセンスがいい！まるでアートスペース。インテリアも素敵でコスト感覚も鋭い。こんど職場のみんなで行こうと決めたぜ！

●タウンカフェ見学者（コミュニティビジネス入門講座受講者：東京都立川市Y氏）のレポートより

まちづくりにとって一番大切な住民の力。彼らが一步を踏み出す勇気や機会をいかに提供できるか。タウンカフェの機能として一番重要な部分はそこなのだろう。地域コミュニティーを着実に築くことでまちづくりに参加する住民の方が増えればそのぶん素敵なまちづくりが行われるはず。一方でビジネスとしての事業性が無ければせっかくの理念も実現できない。人を巻き込みながら彼らが主体的に参加できる仕掛けをつくることがコミュニティービジネスとしてのタウンカフェ事業に必要なことではないか。

●タウンカフェ学生インターン：Hさんのレポートより抜粋

世の中が便利になる一方で、人と関わること無くしても生活することが可能となつた。けれど、人間は人の関わりにおいて成長し、心身を満たしていく。独りで生きてゆくことは物理的に可能であっても精神的には不可能だと言われている。私も含め、そうした危機感を持つ人が、それぞれの関わり方で地域を活性化させたりそうした輪を広げることができれば。なんとなく住み始めた港南台も何時しか9年目。子どもも大きくなつて気が付けばこの地に根付いている。そんな自分が今や生活の励みとなった小箱ショップの出店によって知り合いも増え、タウンカフェの役割の大きさを知つて、人ととの橋渡し役になろうとしている。港南台で成長してゆく子どもたちのためにもより住みやすく、より楽しい町にしていきたいなと思う。

●小箱ショッピングオーナー：Tさんのコメントより抜粋

《メディア等で紹介されました》



●日経MJ ●広報よこはま港南区版 ●神奈川新聞 ●横浜市商店街連合会機関誌

2005/11/22 関東経済産業局コミュニケーションビジネス・NPO活動推進室担当者 取材

2005/11/13 朝日アドバンスに紹介されました。

2006/1/24 tvk取材：TRY！神奈川

2006/5/1 日経MJ（日本経済新聞社発刊）に取材記事掲載

2007/3/16 青少年（内閣府発行）に掲載。社団法人青少年育成国民会議
他、横濱タウン新聞、はかまぜ新聞、タウンニュース、すまいる情報館など多数



横浜港南台商店会、株式会社イータウン、まちづくりフォーラム港南

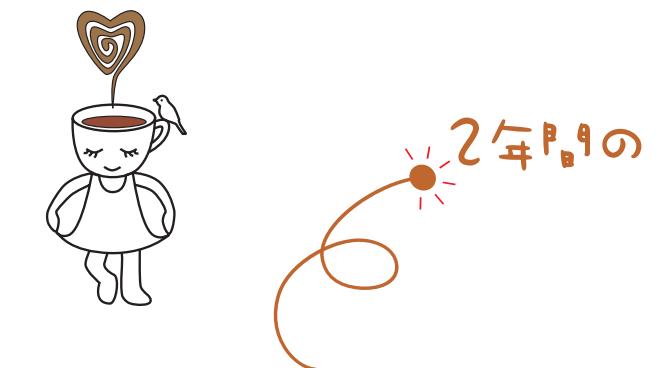
事務局：港南台タウンカフェ

横浜市港南区港南台4-17-22 キタミビル2F TEL：045-832-3855 FAX：045-832-3864



cafeから始まる、
おもしろまちづくり

<http://www.town-cafe.jp>



港南台タウンカフェ歩み

2005.10－2007.9

港南台の まちづくり プロジェクト



港南台を舞台に cafeから始まるまちづくり

主な活動報告

■港南台テント村

伝統ある第四土曜のフリーマーケットに加え、イベント満載の第二土曜では、ボランティアが企画・運営を行い、地域参加・交流の機会となっています。活動：キッズスペースの運営や音楽通り、オープンカフェ、出張小箱、中越震災復興炊き出し＆神奈川地モノ市、鉄道イベント（2006年10月）、子どもウォーカラリー（2006年11月）、キャンドルワークショップ（2007年6月）

■まちサロン

まちの方をゲストに招いて毎回様々なテーマで語り合います。お茶を飲みながら気軽に参加できます。（まちづくりフォーラム港南主催）

■キャンドルナイト

「でんきを消して、スローな夜」というスローガンのもと、毎年夏至の日の夜、2時間だけ明かりを消して、節電しよう！という“100万人のキャンドルナイト”を港南台でも行い、200名を超える多くの市民の方々の参加がありました。地元企業や団体との連携や市民参加を実感できたイベントでした。

■小箱スクエア

2006年10月より始まった、小箱ショップのオーナーによる誰でも参加できる、作家さんとの出会いの場です。ブチ教室や作品の展示販売、体験会など、年間53回もの開催があり、地域の交流の機会となっています。

■まちの情報発信

かわら版・e-town・ウォールポケット

かわら版（港南台タウンカフェ通信＝横浜港南台商店会発行）の発行（年4回・2万部）や、地域情報サイトe-town、サロンスペースのウォールポケットなど、タウンカフェに集う人々による、まちの情報交流がますます充実してきています。

■地域連携

- 港南台子育てマップ
- 港南台子育て連絡会の皆さんと、港南台で育児をはじめるお母さんたちを対象とした子育てマップを作成しました。

- 港南台国際協力まつり（横浜NGO連絡会主催）協力
- 港南台連合夏祭りへの出店
- 港南台ひの特別支援学校でのPTAバーベキュー参加協力（横浜港南台商店会）
- 港南百景
- 横浜市民メディア連絡会の市民デジタルアーカイブ研究の一環として4回の写真展と7月のウォールアート展などをサロンスペースを利用した新たなまち見取り組みを行いました。
- まちかど交流ステーション

■タウンシェフ養成

ボランティアやインターンシップに加えて、市民活動夏塾、法政大学（法政大学公共政策インターンシップ）、若者就労支援研修受入れ等を行ってます。（裏面参照）

■音楽通り

タウンカフェにいつもとちがう、なごやかで味わいのある空気が流れます。教室の先生や趣味で楽器を演奏している方、いろいろな人が自慢の楽器を演奏して來てくれた方達に至福の時間をプレゼント！



2年の歩み 2005……2006……2007→

【2005年】

- 5/19 横浜港南台商店会総会
- 5/26 もくもくstudio石井氏と打合せ（1）
- 6/16 第1回オープンミーティング：26名参加
- 7/21 第2回オープンミーティング：18名参加
- 9/7 解体工事開始
- 9/13 港南台タウンカフェ説明会：15名参加
- 9/15 第3回オープンミーティング：11名参加
- 9/18 天井ペンキ塗り
- 9/30 棚、カウンター設置
- 10/10 ボランティア研修会 11名参加
- 10/11 小箱ショップ搬入開始
- 10/15 港南台タウンカフェオープン
- 式典・懇親会開催
- 10/24 かわら版企画会議を実施（横浜港南台商店会・まちづくりフォーラム港南・しゃべり場）
- 港南台連合自治会でかわら版を各戸配布
- 中越震災復興炊き出し＆神奈川地モノ市（えちごそうる・ひな協力）
- 11/5 小箱ショップオーナーズミーティング
- 11/24 まちサロン（2）マロニエのまちづくり
- 12/2 第2回オーナーズミーティング

【2006年】

- 2/14 音楽通り（1）フルート
ひょうごんテック視察ヒアリング
- 2/20 第3回オーナーズミーティング
- 3/11 新潟の「ところ天」と「えご」試食会
- 3/21 音楽通り（2）篠笛とお米
- 3/25 港南台テント村
- 4/14 音楽通り（3）ウクレレ
- 5/13 音楽通り（4）フルート
- 港南台テント村企画会議：15名出席
- 6/3 音楽通り（5）フルート
- 6/10 港南台テント村&音楽通り（6）
ウクレレライブ&オープンカフェ
- 音楽通り（7）ライター

【2007年】

- 1/14 スタッフ・ボラ交流研修会
- 2/10 ボランティア交流会
- 港南台子育てマップ発刊：
- 3/17 港南区生涯学習交流会（こうBOX活動紹介）
- 3/19 神奈川県地域福祉コーディネーター推進フォーラムにて事例紹介
- 3/27 横浜ウォーカー4月号掲載
- 3/5～ 港南百景プロジェクト開始
- 3/10 まちサロン横浜市民メディア連絡会



数字で見る タウンカフェの 一年

1,954時間 2005年度
2,626時間 2006年度

ボランティアスタッフ活動時間
港南台タウンカフェには、高校生からシニアまでのボランティアスタッフが20名以上登録。様々なジャンルで活動しています。最近では学生を中心とした若手の育成や活動が盛んになってきてます！

1,327名 2005年度
1,639名 2006年度

貸しスペース利用者数（延べ時間）
2-3人のブチ教室やまちづくりに関するセミナー・講座、様々な会議やおしゃべりの場、ミニパーティーなど、地域の方々にご利用いただいている。

804棚 2005年度
905棚 2006年度

小箱ショップ利用棚数（延べ）
地域の手づくり作家さんや、趣味の工芸、地元でご商売されている方の商品のご紹介や販売代行などが大賑わいでいます。小箱だけなく、交流や活動展開などにもつながっていますね。

港南台タウンカフェプロジェクトサポーター（賛同者）募集します。

タウンカフェでは、ボランティアスタッフが主体に企画編集を行うかわら版「港南台タウンカフェ通信」の発行などの活動に賛同してくださるサポーターを募ります。

- 企業・法人 一口 1万円（年間）
- 個人 一口 1千円（年間）

使途
・タウンカフェ通信の発行費用
・メンバーの活動費・人材育成費など